

1 学校教育目標	
地域社会と連携し、自然・文化・伝統を継承・発展させる活動に取り組み、高い意識をもつて地域創生や地域貢献を担うグローバルな視点を持った、自ら考え行動できる人材の育成を目指す。	
【学校経営目標】	
(1) 幼保小中高連携による発展的な英語教育とICT特定推進校としての発展的なICT活用教育を実践する。 (2) クリエイトハイスクール指定校として地元自治体や企業等と連携・協働した探究的及び創造的な質の高い学びを実践する。 (3) マンガ学科の設置及び普通科グローカル探究コースの開設により、地域活性化策に連動した新たな学びによる特色化を図る。	

2 本年度の重点目標	
・地元自治体や企業等と連携・協働した探究的創造的な質の高い学びを実践し、本校の魅力を更に高める。 ・学校及び学科の特色を活かした教育活動を推進し、情報発信等を通じて本校の魅力を更に高める。	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	働き方改 革を意識 した業務 改善に取 り組む	持続可能な組織 的な学校運営の 構築	各学期の業務 振り返りを行 い、課題を分 析・検証し、 改善案を提示 する。	学期ごとに学 校行事や校務 分掌の取組を 振り返り、取 組の検証や課 題解決に向け た改善案の提 示を、時機を 逃さず実施す る。	3. 2	生徒や職員へのア ンケートにより、 学校行事ごとに振 り返りを行い、生 じた課題の解決に 努めた。来年度 は、学科改編の完 成年度を迎えるた め、これまでの活 動を総括する必要 がある。
	本校の魅 力発信に 取り組む	マンガ学科及び 普通科グローカ ル探究コースの 入学生確保のた めの組織的な取 組の実践	本校の日常的 な教育活動を SNSや特設 スタジオの活 用により、定 期的に情報発 信する。	○オープンスク ール・上級 学校説明会に おいて、高森 町、コアミッ クス社、県教 委と連携し生 徒募集を行 う。 ○TPCと連携 し、校内スタ ジオを活用し た、本校の魅 力発信動画を 作成し、情報 発信を行 う。	3. 5	○オープンスク ールへの参加者や入 試受験者の大幅な 増加が見られ、四 者で連携した生徒 募集を展開するこ とができた。 ○定例の情報発信 委員会を実施し、 TPCと情報共有 しながら、学校行 事や本校の取組に ついて情報発信す ることできた。
学力 向上	生徒が自 ら学びに 向かう力 を育む教 育活動の	シラバスと授業 評価の充実	マクロループ リックの視点 を授業に反映 できるシラバ スと授業評価	○マクロル ープリックと連 動した授業評 価を作成す る。	3. 2	○授業評価の項目 に、各教科で設定 したループリック に関する評価を加 えた。

	研究		を作成する。	○授業に活用できるシラバスを作成する。		年度当初だけでなく、年度途中にもシラバスを確認する機会を持つことができた。
		授業研究の体制づくりと観点別評価の充実	教科を超えて授業づくりを行う体制を作る。	教科横断的な授業の実施に向けた職員研修を行い、それを反映させた研究授業を計画する。	3. 4	授業づくりワークシートを作成する職員研修を行い、教科を超えて検討した。そこで検討した授業について研究授業を実施する計画をしたが、1回しかできなかった。
キャリア教育(進路指導)	生徒の主体性を育むキャリア教育を推進する	地域連携事業とキャリア教育の一体化	協力機関と本校の目指す生徒像を共有し、キャリア教育の充実を図る。	○探究活動に係る広報物を作成する。 ○本校の目指す生徒像や生徒の育成方針についての周知計画を作成する。	3. 3	○探究活動に関するパンフレットを作成した。 ○本校の生徒育成に関するルーブリックを作成し、校内に掲示した。
		体系的な進路指導の確立	高森高校版進路のしおり「Lynx」の活用とキャリア・パスポート評価面談を実施する。	○高森高校版進路のしおり「Lynx」の活用計画を作成する。 ○キャリア・パスポート評価面談に係る研修を実施し、面談を通して得られた評価を分析する。	3. 3	○進路のしおりを学年ごとに計画、利用しながら生徒の進路意識の向上を図った。 ○学期末ごとに生徒は「高森高校生意識調査」に回答し、職員との面談をとおして自身の取組について振り返りを行った。
生徒指導	自らの強みを活かし、集団を意識して「自律的」に行動できる力を育成する	新しい生徒心得(令和6年4月改定)の理解と、自律する態度の育成	新しい生徒心得の実践	生徒同士が互いに規則を確認しあうような態度を育成する。	3. 3	新しい規則を理解した上で実践には多少時間がかかったが、理解と認識を促すために、生徒会を中心にして規則遵守の啓発を行った。
		「いのち」を守るための交通安全指導	交通事故・交通違反「0」を目指す。	警察などの外部機関と連携しながら、交通安全を啓発する。	3. 3	校則を見直し、自転車ヘルメット着用義務化を設定した。あわせて、高森署からヘルメット着用推進校に認定していただき、交通安全の啓発を行った。
		社会の一員としての生活態度を身につける。	近隣や地域の方々と心通うあいさつを励	保護者・生徒・職員が協力し、あいさ	3. 3	生徒登校時に朝から声かけを行った。保護者は、学

			行する。	つの啓発活動を行う。		校行事の実施にあわせてあいさつ運動を行っていただいた。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導の充実を図る	多様性を認め、自他を尊重し行動できる人権感覚の育成	文部科学省が推進する Well-Being (健康と幸福感)を取り入れ、生徒・職員・保護者が心身共に有用感を感じ、自尊感情が高まる取組を実践する。	○職員が生徒へ「自分を語る」ことを目的とした、HR活動を実施する。 ○自他の大切さに気付き、自他を認め寄り添う取組として、自分の想いを綴る人権作文や人権レポートを生徒・職員全員で作成する。	3. 3	○学年ごとに、学年担当の教員が生徒に向けて自分のことを語ることができた。 ○教師側が自分語りをしたことで、生徒それぞれが自分のことを振り返り、これまでのことや思いを人権作文として綴ることができた。一方でその内容に対する返しができていない。
いじめの防止等	いじめを見逃さない、いじめを許さない態度を育成する	組織的な未然防止と早期発見	本校のいじめ防止基本方針(R2改定)の見直しを行う。	いじめの問題に取り組む組織の役割を再確認し、新たな基本方針のもと、いじめ防止を啓発する。	3. 2	いじめ防止対策委員会を中心に、組織で様々な事案に対応し、迅速にいじめの拡大を防ぐことができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携強化による本校教育の特色化を図る	普通科グローカル探究コースとマンガ学科の教育の特色化(魅力化)の構築と、これまで築き上げてきた本校教育の良さの再発見	○魅力化委員会が主査となり、高森町、コアミックス社、県教育委員会との四者での連携協定に基づいた魅力化を推進する。 ○普通科グローカル探究コースの魅力発信をさらに強化する。	○四者による本校の魅力化に向けた定期的な会議を開催する。 ○小中学生向け交流イベントを開催する。 ○総合的な探究の時間に係る成果報告会を実施する。	3. 4	○月に1度の定例の四者会議を開催し、情報共有を行った。 ○5年ぶりに南郷塾寺子屋の開催ができた。次年度についても実施を検討している。 ○7月に対面・オンラインの成果報告会を実施できた。参観者から様々なご意見をいただいた。また、高森町高校生議会を開催し、町への提言を行った。 ○探究活動の成果披露として、県立高校学びの祭典では、最大級のブースを確保していただき、本校の魅力発信につなげた。 ○2年生普通科グローカル探究コー

			<p>○マンガ学科の魅力発信と地域連携</p> <p>○高森町、南阿蘇村を中心とした地元（県内）での作品展示を実施する。</p> <p>○マンガ、イラスト素材提供やイベント協力など外部団体との連携を促進する。</p>		スの学校設定科目において、地域の防災について学び、世界津波サミットに参加し外国人高校生との交流を行った。
健康管理・安全管理	健康教育・保健教育を推進する	生活習慣の形成と心身の健康に関する生徒自身の自己管理能力の育成	<p>講演会の実施や生徒保健委員会の活動を通して、心身の健康の保持増進を図る。</p>	<p>○外部講師を活用した講演会を実施する。</p> <p>○文化祭発表や保健だよりの発行等保健委員会活動を充実させる。</p>	3. 2
	環境教育と防災教育を推進する	生徒・職員の安全に対する意識の高揚	<p>○4月のくまもと防災月間及び9月1日防災の日を機として、地域の特徴や季節に即した防災教育を充実させる。</p> <p>○実用的な危機管理マニュアルの改訂作業に生徒及び職員の意見を</p>	<p>○4月に全校生徒と全職員を対象とするAED講習会を消防署の指導の下実施する。</p> <p>○1学期に防災避難訓練及び消火器使用訓練を実施する。</p> <p>○2学期にシェイクアウト訓練を実施する。</p>	3. 3

		<p>取り入れ、全生徒と職員の防災意識を向上させる。</p> <p>○学校行事ごとの災害避難計画を改訂する。</p> <p>○危機管理マニュアルの中で、特に災害対応に関わる初期動作を整理し、実用性を高める。</p>	<p>る。</p> <p>○学校行事ごとの災害避難計画を改定した。特に校外活動時の落雷を想定した行動を追記した。</p> <p>○災害時の危機管理マニュアルについては、本校の実情に応じて大雨、台風、大雪など、数日前から準備ができる災害と地震、噴火など突然起こる災害に分けて改訂する必要がある。</p>	
--	--	---	--	--

4 学校関係者評価

- 来年度は学科改編の完成年度を迎える、良くも悪くもさらに注目を浴びることとなる。初めてのことも多く、やるべきことも増え、さらには地域や周囲からの期待に応えねばならない。高森高校 All Team で一丸となって臨んでいただきたい。
- 持続可能な組織的な学校運営を構築するためにも、職員の体調管理を含めた、働き方改革が必要である。外部との連携を図り、学校と地域が役割を分担し、学校運営を行うこともよいのではないか。
- 地元からのマンガ学科入学生は多くない現状がある。小中学校の義務教育段階から、高校生との交流の機会を増やすなど、マンガ学科合格に向けて力をつけさせるような指導の場が増えることを期待する。

5 総合評価

- 普通科については、昨年度にご指摘いただいた、より効果的な情報発信の工夫について改善を図り、地元自治体との連携を中心とした交流イベントを多数開催し、地域のリーダーを育成するグローカルな取組を展開することができた。
- マンガ学科については、高森町・コアミックス・県教育委員会との四者協定に基づき、組織的な取組として本校の魅力発信を実践することができ、オープンスクール及び入学志願者の増加につながった。
- 働き方を意識した業務改善では、評価の平均は昨年度に比べ 0.1 ポイント増加したが、3.2 と低かった。特に職員の約 32%が不十分であると回答しており、昨年度に引き続き、これまでに取り組んできた業務について課題を検証し、組織体制を含めた見直しを図る必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- 来年度は学科改編の完成年度を迎える。これまでの本校の創立 77 年の歴史を踏まえ、学科改編後の 2 年間の魅力化の取組をベースとして、さらなる魅力ある高森高校をどのようにして確立させていくかが大きな課題である。各学科の取組の充実はもちろん、学校全体の積極的な情報発信、多様な生徒に対する支援の充実など、時代の変化に対応した学校運営を推進していかねばならない。特に、1 期生をはじめとした生徒の進路保障・進路実現は本校の至上命題である。その課題を解決するためには、地域に根ざし、地域に愛され、地域を元気にする学校として、これまで以上に地元自治体や企業・大学等と連携を深めなければならない。